

平成29年度 第一回 近肢連保育部会研修報告書

部会名	近肢連保育部会
実施日時	平成 29 年 6 月 10 日(土曜日) 10 時 00 分～ 12 時 00 分
場所	箕面市立箕面文化・交流センター 8階 大会議室
研修テーマ	第1回研修 「笑いのチカラ 今日も、明日も遊びあおう！」
講師等	堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい 課長 作業療法士 ^{まつもと} しげき 松本茂樹氏
参加者数	参加者105名 内訳(アンケートより) 保育士:71名、支援員:6名、心理士:1名、PT:7名、OT:4名、ST:2名、その他:4名 未提出:10名
研修内容	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法(OT)は活動への参加、成功を通して、幸せを感じていただくことを目指す専門職。 ・動作ができるためには感覚が分かることが大事(たとえば箸はのせる感覚が必要)。 ・援助の仕方のポイント(皮膚をさすのは刺激が大きき緊張に繋がるため、手を密着させたまま援助する等)。 ・新聞紙を使って実際に感覚を体験してみる。動き方、感じ方を繰り返し援助し、自己有能感、自己効能感、自己肯定感に繋げる事に保育の専門性を発揮していくべき。 ・道具の工夫(自助具) 紹介・作り方の説明。 ・遊びは活動・場・人の視点で考えて提供する。 ・対象者が笑われると言う事は、「あなたが私にしてくれたことは問題ない、極めて適切である」ということの証である。真剣にふざける、遊ぶ勇気の大切さ。 ・子どもの視覚・視知覚世界の理解 (斜視、立体視、図・地判別) ・子どもによって見え方が違う。子どもの様子を見ながらどうしたらいいかを考える必要がある。 ・環境・課題の配慮・段階付け (動画を見ながら) ・子どもの世界、感覚や気持ちを理解する事が必要。 ・砂遊び(手に物がつくのは恐怖、肢体不自由児は自分でぬぐえないから口に入れる。ぬぐえることをまず教える。) 口で確かめても危なくない食材の利用。 ・ウォーターハンモック、エアークッションなど、療育に有効なアイテムや作り方の紹介。(動画や写真を見ながら) ・遊びの発達 感覚遊び、探索遊び、ごっこ遊び、ゲーム遊び、大人の遊び) ・その子どもの遊びの段階を知る事で、同じ遊びでもそれぞれの遊び方を提供出来る。 ・遊びは遊び遊ばれる関係性。共に楽しむというイメージが大切。 <p>※全体を通して具体的な事例や動画、実践的な事を取り入れて頂き、肢体不自由児の理解を深められる講義内容だった。</p> <p>【アンケート結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像や写真、実技、音楽もあり分かりやすく勉強になった。現場の楽しい雰囲気が伝わっていた。 ・保育に取り入れたい事が多々あり、すぐ実践したい。 ・笑いがたくさんのお話しで笑いの力を実際に感じた。 ・何かしなくてはという思いや子どもの反応を引き出す事への思いが強く、楽しめていなかった。笑う事、遊ぶ事の大切さを確認できた。 ・遊びを考える時、どの様な事が楽しいのかという視点から感覚の本質を理解することが大切だと分かった。 ・前回も先生のお話しをお聞きしたが、何回お聞きしても楽しく分かりやすい。 など
課題及び反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄り駅から会場まで近くてよかった、駅や会場前での案内があり良かった、との意見が多かった。 ・マイクが聞き取りにくかったとの意見があった。